

国際共同研究交通費補助 研究成果報告書

(適宜行追加可)

所属・職・氏名	関西学院大学法学部 教授 塚田幸光
共同研究者 所属・職・氏名	米国サウスイースト・ミズーリ州立大学・教授・クリストファー・リーガー
研究課題	フォークナー国際会議 (Faulkner and Ward Conference) における研究報告とプロツキーコレクション・リサーチ
共同研究 実施期間	派遣期間: 2022年 10月 17日 ~ 2022年 10月 26日 (25日出国、26日帰国) 招聘期間: 年 月 日 ~ 年 月 日
共同研究 実施場所	サウスイースト・ミズーリ州立大学、フォークナー研究所

1. 研究の成果 (本共同研究によって得られた新たな知見、成果等を簡潔に記述してください。該当しない場合は「該当なし」と記載してください。)
(1) 学術的価値 (本研究により得られた新たな知見や概念の展開等、学術的成果)
2022年10月20日から22日まで開催されたフォークナー国際会議 (Faulkner and Ward Conference) に参加、報告した。アメリカを代表する作家ウィリアム・フォークナーと、新進気鋭の黒人女性作家ジェスミン・ウォードの文学を比較考察し、アメリカ南部における文化的・歴史的・人種的な交点を探ることがこの会議の目的である。南部白人作家フォークナーの文学を、黒人女性作家トニ・モリソンが受け継ぎ、さらにウォードがその系譜に連なるなかで、その主題は如何に変容し、現代的な問題を映し出すのかを考察することは重要である。私は、自身の発表で、フォークナーとウォードの描く過去/記憶の表象と亡霊との関わりについて、歴史的なアプローチから考察した。
プログラムにあるように、本会議では数多の報告が行われている。最新の研究発表に触れることで、多くの知見を得、人的ネットワークの構築が可能となる。
(2) 相手国との交流 (海外の研究者と学術交流することによって得られた効果)
「フォークナー会議」は、隔年開催される国際学会である。ミシシッピ大学で行われるフォークナー会議と双璧であり、フォークナー文学やアメリカ南部研究者の精鋭が参加する学会である。
本年のテーマは「フォークナーとウォード」であり、当然のことながら、フォークナー研究者に加え、ウォード研究者や黒人文学研究者も参集し、多くの議論が交わされた。基調講演は、デューク大学のAliyyah Abdur-Rahmanであり、新進気鋭の若手研究者が多く参加していた印象がある。
また、フォークナー研究所は、フォークナー研究の泰斗ロバート・ハムリン名誉教授が設立したセンターであり、ハムリン教授とも2018年の大会以来、再び交流し、多くの助言を頂いた。研究のスペシャリストとの交流は、今後の研究活動において重要な意味を持つ。
(3) 社会貢献 (社会の基盤となる文化の継承と発展、社会生活の質の改善、現代的諸問題の克服と解決に資する等の社会的貢献)
大戦後の50年代、フォークナーは米国の文化政策の一環として日本を訪れている。その中で、彼は日本人作家に多くの影響を与えていることは有名である。大江健三郎や中上健次などは、フォークナーの主題や技法を模倣し、そこから独自の世界を生み出している。アメリカ南部という地域は、アメリカにおける「負けた国/地域」であり、北部による植民地化を経験している。この歴史性を踏まえ、フォークナーは戦後の日本と南部を重ね、日本人を鼓舞したことは重要である。
文学テキストは、単なるフィクションではない。そのテキストの背後には、複雑なコンテキストがあり、それらは網状に広がり、多くの問題に接続している。今回のジェスミン・ウォードとの接点は、貧困地域を食糧にする「災害資本主義」の問題であり、それは実に今日的な問題であり、歴史や社会や経済との交点から文化を見直す機会を与えてくれる。

(4) 若手研究者養成への貢献 (若手研究者養成への取り組み、成果)

フォークナー国際会議では、学部生や院生の論文コンテストも行っている。彼らが文学に関心を持つことで、未来の学者が生まれる。学会はその養成を行っている。

今回の渡米は、もちろん私一人でのものであり、院生の同行はない。だが、海外での研究活動に関わることは、国際的な研究活動促進という点において重要である。今後は、学生たちに積極的に促していきたい。研究報告だけでなく、海外研究者との交流を持つことで、人的ネットワークが形成され、グローバルな研究が可能になる。我々の世代が率先することに意味があると思う。

(5) 将来発展可能性 (本研究を実施したことにより、今後どのような発展の可能性が認められるか)

「フォークナー&ワード」の比較文学的考察、或いは資本主義的な視座からのアプローチは、アメリカ合衆国がかかえる様々なコンテクストを浮き彫りにする。特に、人種と資本主義との関連性は、重要なポイントとなる。

将来的には、フォークナー&ワードの比較文学に関して、複数の論文にまとめ、国際学会誌に投稿する予定である。同時に、ワードの文学に関しては、もう少し調査を行い、単独の論文にまとめたい。

プロツキーコレクションに関しては、リーガー教授との連携を継続し、ハムリン名誉教授に助言を頂きながら、フォークナーの後期研究に活かしていきたい。特にフォークナーのハリウッド時代に関しては、こちらも論文としてまとめる予定である。

(6) その他 (上記 (1) ~ (5) 以外に得られた成果があれば記述してください。)

例：大学間協定の締結、他事業への展開、受賞、産業財産権の出願・取得等

塚田は2015年、フォークナー研究所からBiokyowa Awardを受けており、以来、2016年「フォークナー&ヘミングウェイ」、2018年「フォークナー&ガルシア・マルケス」と、継続的に学会に参加し、報告を行っている。リーガー教授やハムリン名誉教授との関係を踏まえれば、今後は提携という点で何らかのアクションを起こしたいと考えている。

2. 研究発表 (本共同研究の一環として発表 (予定含む) したのものについて記述してください。なお、印刷物がある場合は1部添付してください。)

例：共著論文、口頭発表、出版、ポスター発表

【研究報告】

セッション7 “Ghosts, Memory, and Trauma”

Yukihiro TSUKADA, “Ghost Unbound: Faulkner, Ward, and Capitalism,” Faulkner and Ward Conference. October 22, 2022. Center for Faulkner Studies